

【表12：「キャリア教育に関する実態評価表（一部抜粋）】

キャリア教育に関する実態評価表

氏名 ()

記入者： 中学部 1年 () 2年 () 3年 ()
 高等部 1年 () 2年 () 3年 ()

段階 項目	卒業後の家庭生活や社会生活及び職業生活など を考慮した基礎的・発展的力を育てる段階						
	1	2	3	4	5	6	7
①情緒の安定	親しい人や物の存在で落ち着くことができる。 中1 2 3 高1 2 3	不安や緊張を表情等で表すことができる。 中1 2 3 高1 2 3	好きなことや得意なことであれば落ち着いて活動することができる。 中1 2 3 高1 2 3	支援を受けて、変化や苦手なことがあっても自分で情緒の安定を図りながら活動することができる。 中1 2 3 高1 2 3	変化や苦手なことがあるとしても自分で情緒の安定を図りながら活動することができる。 中1 2 3 高1 2 3	常に情緒は安定しており、落ち着いて活動することができる。 中1 2 3 高1 2 3	
②意思表示	好き嫌い、快不快について体や表情の反応がある。 中1 2 3 高1 2 3	好き嫌い、快不快を伝えようとする。 中1 2 3 高1 2 3	自らの好き嫌い、快不快を伝えることができる。 中1 2 3 高1 2 3	自分の気持ちを他者に分かるように伝えることができる。 中1 2 3 高1 2 3	自分の気持ちを他者に分かりやすく伝えることができる。 中1 2 3 高1 2 3	時と場に応じて自分の意思を的確に伝えることができる。 中1 2 3 高1 2 3	時と場に応じて自分の意思を的確に伝えることができる。 中1 2 3 高1 2 3
③挨拶・応答	名前を呼ばれると目や顔など体の反応がある。 中1 2 3 高1 2 3	促して、頭を下げたり手を挙げたりなど、挨拶や応答の模倣をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	身近な人に簡単な挨拶や応答をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	自ら身近な人に簡単な挨拶や応答をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	身近な人に状況に応じた挨拶や応答をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	自ら誰にでも挨拶や応答をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	相手や場に応じた挨拶や応答をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3
④報告・連絡	要求を身振りや音声で表明することができる。 中1 2 3 高1 2 3	支援を受けて、写真や絵カードで要求を伝えることができる。 中1 2 3 高1 2 3	自ら要求を伝えることができる。 中1 2 3 高1 2 3	促して、身近な人に報告や連絡をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	自ら身近な人に報告や連絡をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	時と場に応じて報告や連絡をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	時と場に応じて、的確に報告や連絡をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3
⑤質問・相談		身近な人に簡単な質問をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	身近な人に質問することができ。 中1 2 3 高1 2 3	日常生活の中で質問や相談をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	日常生活の中で身近な人に質問や相談をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	時と場に応じて質問や相談をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3	時と場に応じて、的確に質問や相談をすることができ。 中1 2 3 高1 2 3

A 人間関係・社会形成能力

(8) 想定される学級数と職員生徒構成の概要

○ 2年生・3年生のおおよその構成

クラス(組)	1	2	3	4	5	6	7	8
教育課程	職業コース		II			I		
生徒数	8	8	6	6	6	3	3	3
担任数	2	2	2	2	2	2	2	2

○ 「職業コース」の構成(仮定)

	2年1組	2年2組	3年1組	3年2組
生徒数	8	8	8	8
担任数	2	2	2	2
所属職員	「職業コース」主任 1名			

※ 「職業コース」主任は、学年の枠を超えたコース全体の運営、進路支援等を担当する。

X 研究のまとめ（令和2年度）

昨年度より、特別支援学校生徒の就労に向けた職業教育や進路指導を強化するため、本校高等部の軽度知的障がいの生徒を対象とした就職を目指す「職業コース」についての研究を行ってきた。

本年度、具体的には、「高等部通常学級Ⅲ課程（社会生活自立や障害者雇用枠での一般就労を目指す教育課程）」を、普通科内『職業コース』に移行することを確認し、県教育委員会や各種関係機関との連携のあり方、学校内外への啓発のあり方、試行実施のあり方等について、詳細の調整を行った。

そして、3年目の次年度は、「試行」に取り組むこととした。

『令和2年度教育委員会の点検・評価（令和元年度実績）〈2020年10月26日発表〉』によれば、自立支援・就労支援の充実に関しての分析と今後の方策が以下のように示されている。

『自立支援・就労支援の充実に関しては、高等部卒業生の就職率が21.7%と前年度を下回る結果となった。これについては進学者や職業訓練校への入校者が増えたことの影響も考えられるが、学校における就労支援の更なる充実の必要性が浮き彫りとなった。今年度は地域企業の協力を得ながら、就労に向けて必要となるスキルや技能を育む指導の在り方について作業学習の種目又は内容の研究を進めるとともに、就職をめざす「職業コース」についての研究を進めており、さらに高等部の教育の充実を図る必要がある。』

「地域企業の協力を得ながら、就労に向けて必要となるスキルや技能を育む指導の在り方について作業学習の種目又は内容の研究」については、今年度、コロナ禍による影響から十分に実践できていない面はあるが、本校高等部内のもう1つのプロジェクトチームにおいて引き続き研究・検証を進めているところである。

今後も、「職業コース」設置研究班と「企業等と共同開発する作業学習」研究班が連携して研究を進め、本校生徒ならびに、本県高等部生徒の「自立支援・就労支援の充実」を意図的・継続的にねらっていききたい。

また、次年度の試行を続けながら、軽度知的障がいの生徒が「自立・就職」を目指す教育課程のあり方について、議論を深めていく必要がある。

具体的には、究極的に「職業学科」を目指すのか、「高等支援学校」を目指すのか、それとも本県の特徴ある取り組みとして、「職業コース」を充実させていくのか、という方向性の検討である。本県の生徒の将来にとってより良い教育課程のあり方を模索しながら、今後の実践を重ねていく必要があると考える。こうした検討については、県教育委員会による総合的な施策の方向性の下で、具体的な検討を行っていききたい。

いずれにしても本校高等部における実践が、本県の生徒の自立支援・就職支援につながるよう、その役割が果たせるように努めていきたい。

最後に、本年度の研究にご協力いただいた数多くのすべての皆様に感謝するとともに、本研究の成果が、今後多方面での取組の一助となることを願いたい。

【引用・参考文献】

- 特別支援学校高等部学習指導要領 令和元年／文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部） 令和2年／文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（高等部）（上） 令和2年／文部科学省
- 特別支援学校学習指導要領解説 知的障害者教科等編（高等部）（下） 令和2年／文部科学省
- 特別支援学校 教育課程編成資料カリキュラム・なび
令和2年3月／宮崎県教育委員会 特別支援教育課
- みやざき特別支援教育推進プラン（改訂版） 平成30年11月／宮崎県教育委員会
- 令和2年度教育委員会の点検・評価（令和元年度実績） 令和2年10月／宮崎県教育委員会

- 福岡市立特別支援学校「博多高等学園」 教育課程
- 福岡県立特別支援学校「北九州高等学園」 教育課程
- 広島市立広島特別支援学校 教育課程
- 山口県立宇部総合支援学校 教育課程

重点研究プロジェクトチーム：『職業コース』実践研究班

- 秋吉研吾（高等部主事）
- 山崎香織（高等部1年主任）
- 山本由紀（高等部2年主任）
- 杉尾智恵（高等部3年主任）
- 山口弘高（教務主任）

令和3年3月

宮崎県立みやざき中央支援学校

〒880-0121 宮崎県宮崎市大字島之内2100番地

学 校 TEL. (0985) 39-1633

FAX. (0985) 39-6046

<http://cms.miyazaki-c.ed.jp/9932/htdocs/>

文責 : 高等部主事 秋吉 研吾